

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 久美浜学園教育目標 「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心を持ち、根気強く努力する子どもの育成」 2 めざす児童像 (1) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子 (2) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 (3) 心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子		1 探究的な学びの土台となる「安心・安定した学級経営」「基礎学力の定着」について、校内研修等を工夫し具体的な取組を進める。 2 「つながり」を視点とした教育活動を充実・定着させ、さらには保護者・地域・学園に広げる等、新たな取組の創造を目指す。 3 本校の課題である「不登校」の解消に向けて、①「つながり」を通じた安心感の醸成、②「基礎学力」の定着、③教職員・児童・保護者との具体的な信頼関係づくり、④継続的な状況把握と具体的な見立て等に取り組んでいく。		「安心感の中で失敗しても挑戦できる」学校を目指して 1 「トライ＆エラー」できるための安心感を醸成する。 2 正しい価値が通る落ち着いた学級経営を大切にする。 3 探究的な学びを視点とした研究推進を行い、授業改善及び指導観の転換を目指す。 4 明確な目標をもち、具体性・計画性・合意性を意識し、組織や過程を活かした教育活動の推進を目指す。 5 指導観を学び合い、コミュニケーションを大切にする。
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題(自己評価)
学校教育指導の重点 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学年の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	(1) 外部講師を招聘する等、校内研修を活性化し、目指す児童の姿や授業を共有する。 (2) 個や集団等、様々な学習形態の中で自分に合った学び方を選び、考え方を対話等で共有する学習活動に取り組む。 (1) 自分事に捉える学習課題や単元ゴールを設定した授業づくりを推進する。 (1) 初見問題への取組や異年齢での教え合い等、取組方法の工夫・改善を図る。 (2) ICTの効果的な活用や家庭学習の取組方法等の改善を目指す。		○単元ゴールを目指して、各児童が個人・ペア・グループでの学びを選択する等、主体的に学習に向かう授業づくりを進めることができた。 ○他学年とのつながりと学び直しをねらい、「つながりスタディ」を年間通じて取り組んだ。 ○各学級のタブレットの活用が浸透し、学習面・活動面等、様々な場面で活用が進んだ。 △家庭学習を含め、学習習慣の確立や自己調整力等を向上するための取組の検討を行う。
	生徒指導	(1) 生徒指導の4視点(自己存在感・共感的人間関係・自己決定の場・安心安全な風土)を活かした学級経営を推進する。 (2) 肯定的評価や価値付けの積み上げにより、判断力の向上や認め合える集団づくりを目指す。 (3) 自分達で係活動を創造させることで、よりよい学級や生活を作り出す経験を積み重ね、自律に向けた土台づくりを行う。 (1) 様々な教育活動において、「つながり」を視点とした内容作りを行い、児童主体の取組を通して、高学年のリーダー性や好ましい人間関係を育成する。 (1) 日常的に児童の状況を把握し丁寧なアセスメントを行い、組織体制の中で見立ての方針を共有・確認し取り組む。 (2) 不登校の未然防止に向けて、SCやSSWの見立て等、専門的な観点を踏まえた具体的な取組を推進する。 (3) 保護者面談を積み上げ、方針や状況、見通しを共有し、家庭・学校双方で具体程な取組を積み上げる。		○児童の判断力を高める指導を大切にしてきた結果、大きな問題事象もなく、全体的に落ち着いた学校生活を送ることができた。 ○学びのパスポート質問紙「安心して学習できる」項目で、97.7%の児童が肯定的な回答をしており、安心感が醸成されていると考えられる。 ○各学級における係活動を児童に考え活動させることで、創造力や意欲を高める機会となった。 ○「ミニ運動会」「お弁当給食」等、児童相互の「つながり」に視点を当てた取組が、児童からの発想から創造されるなど、高学年のリーダー性や主体性が発揮する姿を多く見ることができた。 △不登校や別室登校児童、保護者への支援・対応について、園所・中学校との連携を密にし、見立てや具的的な取組を検討していく必要がある。

健康（体育）・安全	1 規則正しい生活ができ、健康で安全な生活を送ることができる児童を育成する。	(1) かかわり合いを大切にした体力づくりを行い、主体的で継続した取り組む態度を育む。 (2) SNS講習会や保健指導を年間に位置付け、また、年長児への指導も行うことで、メディアコントロールの力を身に付けさせ、基本的な生活習慣の確立を目指す。 (3) 登下校の安全に対して、安全ボランティアの方々との連携や定期的な通学班会等により、把握と指導を行う。	○ペア学年での朝マラソンを行い、励まし合いながら取り組み、マラソン大会当日も互いに応援し合う姿が多く見ることができた。 ○養護教諭による年長児へのメディアコントロール指導、3・4年生のSNS講座等、系統的な指導ができた。 △クマや猿等の出没に係わり、登下校時の安全確保を、安全ボランティア・保護者・地域と連携して対応していく必要がある。
特別支援教育	1 配慮を要する児童への合理的な配慮を心がけ、適切な支援を充実させる。	(1) 配慮を必要とする児童の状況やその支援のあり方について、継続的に共通理解をしたり校内研修で深めたりする。 (2) 通常学級に在籍する支援を要する児童について、特別支援教育充実指導員と連携した個に応じた支援を行う。 (3) 研修を通して、教員の就学についての理解を深めるとともに、SC、SSW、市臨床心理士等との外部と連携し、その専門的な見立てをもとに、配慮を要する児童への適切で有効な支援の仕方を探る。 (4) 丁寧で継続的な面談を通して、保護者と支援の方向性や今後の進路についても確認し合い、適切な就学相談を行う。 (5) 保幼小中の接続期において、具体的・有効的な状況把握や支援の継続・充実を図る。	○特別支援教育充実指導員の配置、また、授業づくりを変更することで、児童一人一人に合った学び方ができるとともに、困り感をもつ児童へ細かな支援を行うことで、その子の意欲につなげることができた。 ○児童の支援に対して、保護者と継続的な面談を行い、具体的な状況や取組を共有し、適切な就学に結び付けることができた。 △支援の必要な児童に対して、保護者への支援も含め、外部との連携を行い、方向性や具体的な取組を共有し、共に考える姿勢を継続していく。
開かれた学校づくり	1 家庭・地域にひらかれ、家庭や地域と協働する学校づくりの推進	(1) 授業参観や行事への参加、小まめな家庭訪問や電話連絡等、保護者との連携を密にする。 (2) 学校・学級だよりやホームページを活用し、学校や児童の様子等、積極的に情報発信し理解を得る。 (3) 学校評価や保護者アンケートを計画的に実施するとともに、行事や取組の感想を活用し、学校改善に活かす。 (4) 地域の人材や資源（高等学校、企業、学校支援ボランティア等）を活用した教科学習等に取り組み、地域の方とのつながりを広げる。 (5) PTAや地域の方等に応援してもらいたいことを校内でも検討・協議を進め、教育活動と密接な連携のあり方を創造する。	○年間を通して、行事や取組を実施することができ、子ども達の成長に対して肯定的評価として表れていた。 ○不定期だが112回のホームページの更新を行い、27254件のアクセスがあった。(2/13現在) ○生活科や総合的な学習の時間を中心に、校区内外に出向き、地域教材や人材を活用する機会が増加した。 △さらなる外部連携や地域人材を生かした教育活動を創造・検討していきたい。
次年度に向けた改善の方向性	1 これまでの久美浜学園のキーワードである「主体性」を育む土台づくりために、「トライ&エラーができるための安心感の醸成」の経営方針を継続させる。そのために、「安心・安定した学級経営」「主体的な学び」について、校内研修等、具体的に取り組み、一歩ずつの改善を目指す。 2 本年度に実践された「つながり」を視点として教育活動を充実・定着させるとともに、その「つながり」を保護者・地域・学園に広げる等、新たな取組を創造しながら本校の教育活動の充実を目指す。 3 本校の課題である「不登校」の解消に向けて、①「つながり」を通した安心感の醸成、②「基礎学力」の定着、③教職員・児童・保護者との具体的な信頼関係づくり、④継続的な状況把握と具体的な見立ての検討、等に取り組んでいく。		